

# 言語文化教育研究学会 月例会特別企画

## 言語教育を生態学的に考える

- 
- ・日時：2016年7月9日(金) 16:00～18:00
  - ・場所：早稲田大学早稲田キャンパス 22号館 619教室
  - ・話題提供：宇都宮裕章さん(静岡大学) 齋藤智美さん(早稲田大学)
  - ・参加費：無料
  - ・予約：不要(当日,直接会場にお越しください。)
  - ・お問い合わせ：monthly@alce.jp(月例会委員会事務局)
- 

生命体をめぐる生態学においては、有機体の多様性、生態系の均衡性、環境全体の持続可能性の大切さに基盤を置き、それらの実証が進められています。学習環境もまた一つの環境のあり方であると捉えれば、言語教育においては、学習者の多様性、学習機会・評価の均衡性、学びの場の持続可能性の大切さに基盤を置きつつ、教育実践を行うことが重要になります。より具体的には、次のような場を創ることを念頭に、教育実践をデザインするということになるでしょう。

- ・複雑かつ多様な言語・文化・価値観を理解・受容する。
- ・学習のプロセスを評価する。
- ・構築 ⇔ 解体, 向上 ⇔ 停滞, 成功 ⇔ 失敗などの往還を繰り返す。

本特別企画では、まず、齋藤さんが、自身が日本語教育実践を行う中でどのような違和感を覚えたか、その違和感に基づき、どのような実践を行ったかを語ります。次に、齋藤さんと宇都宮さんが、齋藤さんが行った実践を題材に、生態学的な観点で捉えることにより、言語教育実践がどのように変わっていくか等に関し、語り合います。それらの語りを踏まえ、参加者全員で言語教育を生態学的な観点で捉えることの可能性を議論します。